

(2) コンブ養殖に関する取り組み

1 事業計画 (案)

将来にわたって、持続的にコンブ養殖漁業を維持していくため、「人工母藻→採苗→養殖→収穫・人工母藻」の完全養殖の確立、高水温耐性種苗や種苗保存技術などコンブ養殖に関する技術の開発を、北海道大学大学院水産科学研究院を中心に函館水産試験場など市内の学術研究機関などが連携して取り組んでいくこととする。

①コンブ養殖技術研究

(1) コンブの完全養殖技術の確立

【ライフサイクル循環制御型コンブ養殖システムの開発】

(ア) コンブ人工母藻作出の最適化

(イ) 低コスト種苗生産技術開発と選抜基盤の構築

(ウ) 地域固有系統の遺伝的多様性の把握



2 全体スケジュール (案)

	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)
人工母藻作出の最適化	胞子体誘導技術原理の普及と改良					成果を用いた事業者による成熟誘導の実施				
		成熟誘導により得られた種苗の生育特性調査					養殖母藻を用いた成熟誘導と完全養殖リサイクルの実施			
							優良な養殖母藻の保存と保存株由来の種苗生産・養殖			
							天然コンブ由来の母藻を用いた種苗の多様性を維持した養殖の継続			
低コスト種苗生産技術開発と選抜基盤の構築	胞子体誘導技術原理の普及と改良					種苗不足のリスク回避法の1つとして保存配偶体意義拡大				
	低コスト種苗保存技術開発					保存配偶体技術の普及				
		高温ストレス応答機構解明				複数技術による種苗リスク整理の普及				
			成熟誘導により得られた種苗の生育特性調査							
地域固有系統の遺伝的多様性の把握	系統分析、遺伝的多様性の把握、遺伝的情報の取得					ブランドとしての函館マコンブの認知				
			品質調査、保管・養殖システムの導入			函館マコンブの管理システムの構築				
							生産管理・種苗流出や産地認証の確立			

※黒枠内は、地方大学・地域産業創生交付金事業期間内（前期5ヵ年）